

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想<中・社会>

特別研修員 社会 山本 誠 (中学校教諭)

単元名 『日本の諸地域「中部地方」』（第2学年） 全6時間計画

単元のねらい

中部地方の地域的特色について、農業や工業などの産業についての資料を読み取り、さかんな産業の背景を考える活動を通して、地理的条件に適応した生活や産業との関連を理解できるようにする。

単元構想の意図

本単元では、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることに気付かせていくために、つかむ過程では課題意識が高まる資料を提示し地理的条件と産業の概観をつかませ、生徒の調べたいことを基に単元の課題を考えさせます。追究する過程では、地理的条件と産業の変化を関連付けて多面的・多角的に考察させるために、ワークシートを工夫し、グループやペアでの意見交流が活発に行われるようにしました。まとめる過程では単元全体の学習内容を端的に表すキャッチコピーを考えさせ、それを班や学級全体で発表させ、単元全体を振り返ることで学びが深まるように構成しました。

過程

つかむ(1)

主な学習活動

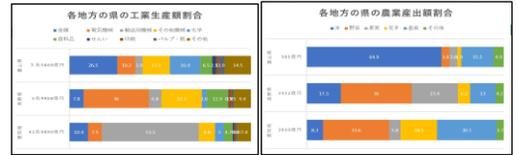
1. 「単元の課題」を把握する

- 中部地方の地理的条件や、東海、中央高地、北陸の産業に関わる資料から概観を知る。
- 「単元の課題」を立てる。

中部地方の産業の特色には、地理的条件がどのように影響しているのだろう。

課題意識が高まる資料

単元への課題意識が高まるよう、生産額の特徴が異なるなど、ずれや驚きのある資料を用いる。



<工業生産額グラフ> <農業産出額グラフ>
地方ごとに特徴的な生産物が異なることに気付かせる資料

2. 「単元の課題」の解決に向け、単位時間ごとに追究をする

○東海の工業に関する資料を基に、輸送機械工業が盛んになった理由を調べる。

○中央高地の産業に関する資料を基に、電気機械工業や果樹栽培が盛んになってきた過程を調べる。

○東海の農業に関する資料を基に、施設園芸農業が盛んな理由を調べる。

○北陸の農業や伝統的工芸品に関する資料を基に、稲作や地場産業が盛んな理由を調べる。

生徒の疑問を基に「単元の課題」を設定させる

生徒から出された疑問や調べたいこと基に、単元を通して追究していく課題を設定させる。

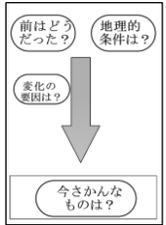
ワークシートの工夫

資料から読み取る内容が整理しやすいように、ワークシートを工夫する。

主な工夫点

- ・ワークシートは文字や矢印を薄く印刷する。
- ・同じ形式で他のテーマと比較検討できるようにする。

<中央高地で用いたワークシート>



追究する(4)

考えたことを話し合う

生徒の発言について問い返したり、新たな視点の提示などをしたりして、多面的・多角的に考えられるようにする。

構造的な板書を行う

情報を分類・整理しやすいよう、生徒の発言を基に「事実」や「考え」を整理した構造的な板書を行う。

単元の課題 中部地方の産業の特色には、地理的条件がどのように影響しているのだろう。

【事実】
中央高地の産業には電気機械工業や輸送機械工業が盛んになった。
東海は施設園芸農業が盛んな理由を調べる。
北陸の稲作や地場産業が盛んな理由を調べる。

【考え】
高速度道路の発達
都市(消費地)収入(増)
生活(衣食)の変化
産業の発展

変化したもの
地理的条件
技術の応用
産業の発展

<中央高地の板書例>

3. 「単元の課題」についてまとめる

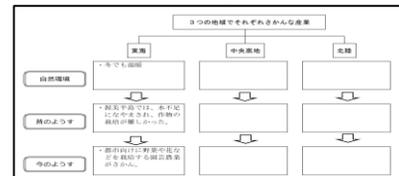
○追究の過程で捉えてきた中部地方の生活や産業について整理し、産業が様々な背景によって成り立っていることを理解する。

北陸の雪や中央高地の扇状地などを生かして工夫し、銘柄米の生産や冬の副業を発展させたり、桑畑から水はけのよさや寒暖差を利用し果樹栽培につなげたりして、生活や産業を成り立たせていることが分かった。

○振り返りの視点を参考に、「何を学んだか」、「どのように学んだか」、「これからの学習にどのように生かすか」を全体で確認し、その後一人一人でも振り返りを行う。

「図での整理」

単元を通しての学習を振り返らせるため、モデルを提示し、共通点や関係性をまとめさせる。



<まとめて示したモデル>

キャッチコピーによるまとめ

学習内容を端的に表すキャッチコピーを作成させる。

学びの価値付け

振り返りの視点を提示することで、ただの感想ではなく、獲得した知識、解決方法、今後の学習に生かせることなどを確認させる。

まとめる(1)

指導例：日本の諸地域『中部地方』（第2学年 第1時）

1 本時のめあてをつかむ。

○掛地図を利用し、中部の地理的条件に関する大まかな特色（「位置」「地形」「気候」など）を確認する。

T：今日から「中部地方」の学習をします。単元のはじめは何をしますか。

S：資料を基に「単元の課題」を設定します。

T：「中部地方」は産業をテーマとして学びます。

〈めあて〉 中部地方の産業に関わる資料を基にして、単元の課題を立てよう。

2 本単元の社会的事象に関わる資料を基に、一人一人が疑問や調べたいことを考える。

○中部地方の産業に関する資料（各地域の産業を比較するグラフ、気候を比較する雨温図など）から、東海、中央高地、北陸の共通点と相違点について気付いたことを発表する。

T：これらの資料からどのようなことを考えましたか？

S：北陸は米が多い。東海は輸送機械、中央高地は野菜や果樹が多い。

S：北陸は冬に降水量が多い、中央高地は降水量が少ない。東海は冬の気温が高い。

3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことについて話し合う。

○一人一人が中部地方について調べたいことを発表する。

S：なぜ、東海では輸送機械工業が多いのだろうか？

S：中央高地の野菜って何？果樹って何？

S：北陸は米ばかり。どうしてだろう？

○発表内容について、関連付けや分類を図る。

T：みなさんの発表を見ると同じ中部地方なのに、どうして作っているものが違うのだろうかということが気になるようですね。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

○キーワード化した発言を基に、「単元の課題」をまとめる。

T：みなさんの発言した内容から「単元の課題」を立てましょう。

S：作っているものについて疑問が多く出ているので、産業と気候や地形などの地理的条件の関わりについて調べる「単元の課題」がよいと思います。

【単元の課題】 中部地方の産業の特色には、地理的条件がどのように影響しているのだろう。

○本時の学習の振り返りをし、これからどのようなことを調べたいかを記述する。

S：各地の産業が異なることが分かった。北陸は雪が多いけど、それは産業にどのような影響を与えているのだろう。

S：中央高地と東海は、両方とも野菜が多いけど、作っているのは同じものなのかな？

S：東海は輸送機械工業が多いけど、それにはどのように地理的条件が影響しているのだろう。

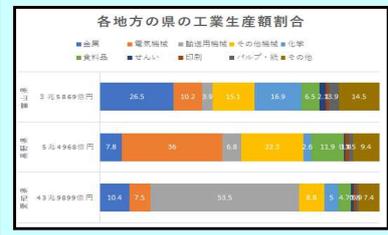
指導のポイント

めあての設定

○中部地方の自然環境の特色がつかめるよう、特徴など既知の知識を活用し問い掛けることで、生徒が興味をもち活動に取り組み始めるようにする。

課題意識が高まる資料

○東海、中央高地、北陸の産業の特色など、資料と資料の間にずれがあるものを提示することで、生徒が疑問をもつことができるようにする。



焦点化に向け

○社会的事象について学級全体で疑問点や調べたいことを共有できるように、発表させた一人一人の考えを関連付けたり、分類したりする。

「単元の課題」の型

○中部地方の産業と地理的条件の関わりを追究する「どのような」型の課題を設定させる。

指導例：日本の諸地域『中部地方』（第2学年 第4時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時の振り返りをし、本時につながる資料を読み取り、本時の学習内容の概要を確認する。

- T：前回の学習ではどのようなことを学びましたか。
- S：東海の工業や農業について調べました。
- T：では、中央高地と東海では、工業や農業はどのように違うのでしょうか。

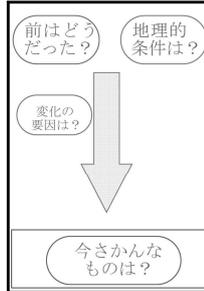
〈めあて〉 中央高地の産業において、なぜ、電気機械工業や果樹栽培が盛んになってきたのだろう。

2 解決に必要な情報を集め、読み取る。

○諏訪湖周辺の工業地域、甲府盆地の果樹栽培の変化、野辺山原の気候等の資料から解決に必要な情報を集める。

○変化した産業や地理的条件、その要因をワークシートを活用し、班で話し合い整理する。

- T：教科書や地図帳などを基に、三つの産業の変化をワークシートにまとめましょう。
- S：昔は何を作っていたのだろう？
- S：昔は製糸業が盛んだったって書いてあるよ。
- S：なぜ、製糸業が盛んだったのかな？
- S：昔は扇状地が桑畑になっているよ。



3 整理した情報を基に考察する。

○整理した情報を基に、現在の中央高地に見られる産業が発達した理由を考える。

- T：それぞれの班で話し合った内容を発表してください。
- T：発表された内容を見ると三つの産業に共通点はありませんか？
- S：製糸業の衰退。高速道路。
- T：それらに共通することはどんなことでしょうか。
- S：社会が変化したということです。
- T：では、昔と今を比べるとどうでしょうか。どんなことに気付きますか。
- S：地理的条件は変わっていない。
- S：作っているものは変わっている。
- T：では、昔と今は全く関わりはありませんか？
- S：いや跡地を利用してたり、技術を応用したりしています。
- T：では、社会の変化に対応したり、技術を応用してものを作り続けていたりするのは何のためですか。
- S：利益を増やすためです。産業を発展させるためです。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

○板書で整理した本時のキーワードから考えたことを基に、まとめを書く。

T：板書のキーワードを基に、まとめの言葉を考えてみましょう。



まとめ
社会が変化しても、変化しない地理的条件を生かしたり、世の中の状態に合わせて技術を応用したりして、中央高地の産業の発展につなげてきたから。

〈子供の発言を基にまとめた板書例〉

- T：板書やほかの人の発表も踏まえ、今日の振り返りをワークシートに書きましょう。「分かったこと」「どのようにしたら解決できたか」「次の学習に向けて」という視点で振り返りましょう。

指導のポイント

めあての設定

○前時までの学習内容や生徒の疑問などを基に、本時で解決する課題を生徒の言葉を基に設定する。

ワークシートの工夫

○他のテーマのまとめと比較・検討しやすいよう、ワークシートのひな形を決めておき、文字を薄く印刷して上書きで記入できるようにする。

考えたことを話し合う

○一人一人が調べたことを、小集団や学級で話し合わせ、さらに発表内容に教師が問い返したり、他の生徒に質問をさせたりすることで、考えを広げたり深めたりする。

一般化するためのまとめ

○社会的現象について一般化し学級で共有するために、追究する中で見つけたキーワードを基に生徒の言葉でまとめる。

振り返りの視点

○産業と地理的条件の関わりを意識した学習の振り返りをさせる。振り返りの視点を示して振り返らせることで、ただの感想ではなく、「何を学んだか」、「どのように学んだか」、「これからの学習にどのように生かすか」を書けるようにする。

振り返りの視点
①分かったことは？
②どのようにしたら解決できた？
③次の学習に向けて
の三つの視点で振り返りましょう！

指導例：日本の諸地域『中部地方』（第2学年 第6時）

1 本時のめあてをつかむ。

○単元のまとめとして、中部地方の単元の結論を導く時間であることを確認する。

T：今日は「中部地方のまとめ」の学習をします。今までどのようなことを学習してきましたか。

S：いろいろな資料から中部地方の産業について調べてきました。

T：では、その資料を活用し、キャッチコピーを作成しましょう。

〈めあて〉 中部地方における単元の課題について、資料を活用し、分かったことや考えたことを整理しよう。

2 学習してきたことを基に、一人一人が「単元の課題」に対する結論を考える。

○各単位時間に習得してきた具体的な事実に関する知識などの共通点や関係を整理する。

T：今までの学習で、中部地方についてどのようなことを学習しましたか。

S：東海は輸送機械工業が盛んだということ。

S：東海では、温暖な気候を生かして、施設園芸農業も行われていました。

S：中央高地は電気機械工業や野菜、果樹栽培が盛んであるということ。

S：北陸は雪が多いので、農業は米が多く、副業から地場産業が発達したということ。それと米を加工した食品を作っていました。

T：では、地理的条件との関わりはどうでしたか。

S：昔も今も扇状地を利用していました。

S：農業も工業も雪の影響を強く受けていました。

○資料を選択し、キャッチコピーと説明を考える。

T：では、今までの学習で用いた資料を2～3選び、中部地方を表すキャッチコピーを考えてみましょう。

3 学級全体で、「単元の課題」に対する結論を話し合う。

○班や学級全体で発表し合い、その結論や根拠の妥当性、共通点や相違点を考える。

T：それぞれがまとめた内容を発表しましょう。ほかの人の発表を聞いて、同じところや違うところがあったら、メモをしておいで、後で質問をしましょう。

繊維工業から進化した
現代的工業
（生徒の作成したキャッチコピーの例）

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（単元全体のまとめ・振り返りをする。）

○発表内容を基に「分かったこと」「気付いたこと」を考える。

T：みなさんの発言した内容からどのようなことが分かりましたか。

S：北陸の雪や中央高地の扇状地などの地理的条件に対し、人々が工夫して生活や産業を成り立たせていることが分かりました。

S：中部地方の人々と同じような生活や産業の工夫がほかの地域でも見られるのではないかと思います。

課題5 今日学習や中部地方の学習全体を通して「わかったこと」「どのような方法で解決したか」「これからの学習に向けて」という視点で振り返ろう。

東海では、自動車や菊やキャベツが育てられていて、それは全て繊維から応用されて作られていることが分かった。
中央高地では、レタスや精密機械が作られている。それも全て繊維から応用して作られていて東海と似ている。
北陸では米が育てられていて、それは雪という地理的条件を利用しているだけでなく、品種改良などの工夫をしていた。良い水などの地理的条件を生かしておいしいお米を育てていると思った。また、いろいろな米菓を作ったりする工夫もしていた。
私が思ったことは、みんなの地方の人でも地理的条件を生かして、その地域の有名なものを作っているんだなと思った。

〈生徒によるまとめ例〉

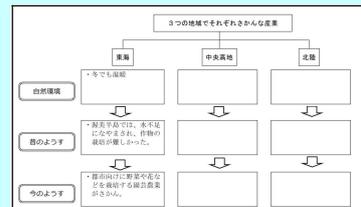
指導のポイント

めあての設定

○追究の過程で活用した多くの資料から、中部地方の特徴を最もよく表す資料を活用し、単元の課題の答えをまとめるよう促す。

社会的事象を多面的・多角的に捉えるための「図での整理」

○今までに活用してきた資料や教科書にある関連図などを活用し、単位時間ごとの学習の共通点や関係性を整理し、多面的・多角的に捉えられるようにする。



考えたことを話し合う

○今までの学習で活用してきた資料を基にキャッチコピーを作成させることで、根拠を明確にして話し合えるようにする。

単元全体の振り返り

○振り返りの視点を提示し、何を学んだか、どのように学んだかを全体で整理し、その後一人一人に同じ視点で個人の振り返りをさせる。

社会科学学習指導案

平成30年10月～11月 第2学年 指導者 山本 誠

I 単元名 日本の諸地域「中部地方」

II 学習指導要領上の位置付け

(3) 日本の諸地域

産業を中核とした考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。

(イ) 産業を中核とした考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日本の諸地域において、それぞれ産業を中核とした事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

III 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

ア (知識及び技能)

中部地方の産業の地域的特色と、人々の生活や地形や気候などの自然環境との関わりについて理解し活用している。

イ (思考力、判断力、表現力等)

中部地方の産業の地域的特色を地図や資料から読み取り、自然環境や交通・通信などと関連付けて考察し、自分の言葉でまとめている。

ウ (学びに向かう力、人間性等)

中部地方に関心をもち、その地域的特色を産業と関連付けて意欲的に追究しようとしている。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／6）

- ねらい 中部地方の地理的条件や東海、中央高地、北陸の産業に関する資料を基に疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して、三つの地域の産業の特色や違いを追究する意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分） ○中部地方の地理的条件の概要がつかめるよう、日本の中での位置、雨温図から気候の特徴などを見付けるように促す。 ○中部地方の地理的条件に関する大まかな特色を問いかけるとともに板書に整理する。 （「東京大都市圏と京阪神大都市圏には含まれている」「東海、中央高地、北陸の気候」など）			
めあて 中部地方の産業の特色に関わる資料を基にして、単元の課題を立てよう。			
2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。（20分） ○東海、中央高地、北陸の産業（農業や工業）に関する資料から、それぞれの特徴、疑問や調べたいことを記述するよう促す。 ○雨温図や地形などの地理的条件に関する資料などを提示する。			
3 学級全体で、社会的事象についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。（10分） ○中部地方の資料を基に考えた自分の疑問や調べたいことを発表するよう促す。 ○発表内容について共通点や相違点を確認させるとともに、生徒の発言を基に関連付けたり分類したりして見付けたキーワードを板書する。			
4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（10分） ○中部地方の学習において、共通して解決すべきことを問い掛ける。 ○「産業の特色」「地理的条件」「影響」などのキーワードを基に、単元の課題をまとめ板書する。			
中部地方の産業の特色は、どのような特色があるのだろうか。			
中部地方の自然環境や産業の特色を捉えるとともに、調べたいことや疑問点を考え、単元の課題を記述している。＜ワークシート・発言（1）＞			
☆中部地方は、地形や気候から三つの地域に区分できるけれど、それぞれの産業にどのような違いや特色があるのか、早く調べてみたいな。			

V 本時の展開（4／6）

1 ねらい 地理的条件と産業やその変化の関連を話し合う活動を通して、現在の中央高地に見られる産業が成立した理由を理解できるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p>○単元の課題や学習してきた前時の東海の農業についての内容を確認するよう促す。</p> <p>○東海、中央高地、北陸の産業が分かる資料を提示し、中央高地が他と比べ、電気機械工業、果樹栽培の割合が高いことを確認するよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>めあて 中央高地では、なぜ、電気機械工業や野菜・果樹栽培が盛んになってきたのだろう。</p></div>			
<p>2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。（15分）</p> <p>○諏訪湖周辺の工業地域や、甲府盆地の果樹栽培の変化、野辺山原の気候などの資料から解決に必要な情報を集めるよう促す。その際、学級で調べる内容を分担するよう助言する。</p> <p>○時代とともに変化した産業や地理的条件、その要因をワークシートを活用し、整理するよう助言する。</p> <p>○時代とともに変化した産業、地理的条件、要因について整理した内容を、調べたペアで補完・修正するよう促す。</p>			
<p>3 学級全体で整理した情報を基に考察する。（20分）</p> <p>○内容ごとに、時代とともに変化した産業、地理的条件、要因を発表するよう促す。</p> <p>○発表し合った情報を基に、共通点を話し合わせるとともに、どの事実から考えたのかを問い返したり、必要に応じて新たな視点から考えられる補助資料を提示したりする。</p> <p>○話合いの内容を「共通点」や「変化しないもの」の視点から構造的に板書する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"><p>中央高地の地理的条件や社会や生活の変化に関わる情報と、現在の中央高地の産業が成立した理由を考え、表現している。＜ワークシート・発言（2）＞</p></div>			
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（10分）</p> <p>○黒板に整理された内容などから考察した生徒の発言を基に、まとめの言葉を板書する。</p> <p>○一人一人に本時のめあてを意識した学習の振り返りをするよう促す。その際、「分かったこと」「どのようにしたら解決できたか」「次の学習に向けて」の視点を示す。</p> <p>☆社会が変化しても自然環境を生かし、今まで盛んだった養蚕の技術を応用できる新たな産業を見つけ、発展するよう努めてきたのには感心したな。北陸の産業はどうなるのかな？</p>			

V 本時の展開（6／6）

- 1 ねらい 追究し整理した三つの地域の産業の特色の共通点を話し合う活動を通して、中部地方の産業は自然環境や昔からの技術の活用によって成り立っていることを理解できるようにする。

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p>○「中部地方の産業は、どのような特色があるのだろう」という単元の課題を確認するよう促す。</p> <p>○本時の見通しをもつことができるように、単元の結論を考える時間であることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて 三つの地域の産業の共通点を話し合い、中部地方の産業の特色をまとめよう。</div>			
<p>2 一人一人が、学習してきたことを基に「単元の課題」に対する結論を考える。（20分）</p> <p>○中部地方の特色を示す資料を「三つの地域の産業の共通点」の視点から整理するよう助言する。</p> <p>○整理した資料から、中部地方のまとめに必要な資料を整理するよう促す。また、二～三程度の資料を選択させ、キャッチコピーと簡単な説明を記述するよう促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;">複数の資料の中から、自分で必要とする資料を選択し、中部地方の生活や産業の特色を自分の言葉で表現している。<キャッチコピー（4）></div>			
<p>3 学級全体で、「単元の課題」に対する結論を話し合う。（20分）</p> <p>○一人一人が作成したキャッチコピーを小グループや学級全体で発表し合うよう促す。</p> <p>○他の人の発表を聞き、自分の結論と比較して見直すように助言する。</p>			
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。（5分）</p> <p>○それぞれが作成したキャッチコピーを基に話し合い、分かったことや気付いたことを基に、単元全体のまとめを板書する。</p> <p>○中部地方について「何を学んだか」「どのように学んだか」という視点に基づいて、単元全体の振り返りをするよう促す。</p> <p>☆三つの地域の産業の共通点を見つけたら、雪が多いなどという自然環境に対して、同じ中部地方でも、それぞれ特徴的な地形や雪などの自然条件に、人々は工夫しながら産業を成り立たせていることが分かった。他の地域でも同じことが見られるのではないかと調べてみたいと思った。</p>			

指導計画 社会科 第2学年 単元名『日本の諸地域「中部地方」』（全6時間計画）

目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>ア（知識及び技能） 中部地方の産業の地域的特色と、人々の生活や地形や気候などの自然環境との関わりについて理解し活用している。</p> <p>イ（思考力、判断力、表現力等） 中部地方の産業の地域的特色を地図や資料から読み取り、自然環境や交通・通信などと関連付けて考察し、自分の言葉でまとめている。</p> <p>ウ（学びに向かう力、人間性等） 中部地方に関心を持ち、その地域的特色を産業と関連付けて意欲的に追究しようとしている。</p>		
評価規準	<p>(1) 中部地方に関心を持ち、その地域的特色を産業と関連付けて意欲的に追究しようとしている。</p> <p>(2) 中部地方の生活や産業などの地域的特色を、地理的条件と関連付けて考察している。</p> <p>(3) 地図や資料から、中部地方の地理的条件の特色やそれを生かした生活や産業を読み取っている。</p> <p>(4) 中部地方の地形や気候などの地理的条件と、人々の生活や産業の関わりについて理解している。</p>		
過程	<p>時間</p> <p>○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り（意識）</p>	<p>◇評価項目 〈方法・観点〉</p>
つかむ	<p>1</p> <p>○中部地方の地理的条件や東海、中央高地、北陸の産業に関する資料を基に疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して、三つの地域の産業の特色や違いを追究する意欲をもてるようにする。</p> <p>中部地方の産業の特色に関わる資料を基にして、単元の課題を立てよう。</p>	<p>☆中部地方は、地形や気候から三つの地域に区分できるけれど、それぞれの産業にどのような違いや特色があるのか、早く調べてみたい。</p>	<p>◇中部地方の自然環境や産業の特色を捉えるとともに、調べたいことや疑問点を考え、単元の課題を記述している。</p> <p>〈ワークシート・発言(1)〉</p>
<p>【単元の課題】 中部地方の産業は、どのような特色があるのだろう。</p>			
追究する	<p>1</p> <p>○東海の産業に関する資料を基に、輸送機械工業が盛んになった経緯を話し合う活動を通して、織物工業を土台として発展した工業地帯・地域の特色を理解できるようにする。</p> <p>東海ではどのように輸送機械工業が盛んになったのだろう。</p>	<p>☆東海の産業について調べたら、昔からあった繊維産業の技術を生かしたり、交通網の発達により製品の輸送に便利なことから輸送機械工業が盛んになったことが分かった。場所的に農業についてもきっと特色があるのだろう。</p>	<p>◇東海で輸送機械工業が盛んな理由について、歴史的背景や地理的条件などと結び付けて考え、表現している。</p> <p>〈ワークシート・発言(2)〉</p>
	<p>1</p> <p>○園芸作物の生産割合や交通網・都市に関わる資料を基に、地理的条件と消費地の関係を話し合う活動を通して、東海で野菜や花きなどの施設園芸農業が発達していることを理解できるようにする。</p> <p>交通網や都市が発達している東海では、どのような農業が盛んなのだろう。</p>	<p>☆東海で生産量の多い農作物と生産地を調べたら、交通網の発達や消費地である都市との位置関係によって、地域ごとに農業の特色があることが分かった。</p>	<p>◇農作物が地質や気候だけでなく、消費地や交通網の発達などの条件により生産されていることを理解している。</p> <p>〈ワークシート・発言(4)〉</p>
	<p>1</p> <p>○地理的条件と産業やその変化の関連を話し合う活動を通して、現在の中央高地に見られる産業が成立した理由を理解できるようにする。</p> <p>中央高地の産業は、なぜ、電気機械工業や野菜・果樹栽培が盛んになってきたのだろう。</p>	<p>☆社会が変化しても自然環境を生かし、今まで盛んだった養蚕の技術を応用できる新たな産業を見付け、発展するよう努めてきたのには感心した。北陸の産業はどうなるのかな？</p>	<p>◇中央高地の地理的条件や社会や生活の変化に関わる情報と、現在の中央高地の産業が成立した理由を考え、表現している。</p> <p>〈ワークシート・発言(2)〉</p>
	<p>1</p> <p>○農業や伝統工芸品の資料を基に、産業と自然環境との関わりを話し合う活動を通して、北陸で降雪が多いことが稲作や地場産業が盛んなことと関連していることを理解できるようにする。</p> <p>北陸で盛んな稲作や伝統工芸品などの産業は、雪が多いという地理的条件とどのような関わりがあるのだろう。</p>	<p>☆北陸で盛んな産業と人々の生活について調べたら、雪どけ水を利用した稲作や米の加工品の生産などの工夫をしていた。また、雪によって農業のできない冬場に行われた副業から発達した伝統工芸品があり、現在の地場産業の土台となっていることが分かった。</p>	<p>◇気候や産業に関する資料から、北陸の人々の生活が自然環境から受けている影響を読み取り、整理している。</p> <p>〈ワークシート・発言(3)〉</p>
まとめ	<p>1</p> <p>○追究し整理した三つの地域の産業の特色の共通点を話し合う活動を通して、中部地方の産業は自然環境や昔からの技術の活用によって</p>	<p>☆三つの地域の産業の共通点を見つけたら、雪が多いなどという自然環境に対して、</p>	<p>◇複数の資料の中から、自分で必要とする資料を選択し、中部地方の生活や</p>

成り立っていることを理解できるようにする。

三つの地域の産業の共通点を話し合い、中部地方の産業の特色をまとめよう。

同じ中部地方でも、それぞれ特徴的な地形や雪などの自然条件に、人々は工夫しながら産業を成り立たせていることが分かった。他の地域でも同じことが見られるのではないかと調べてみたいと思った。

産業の特色を自分の言葉で表現している。
〈キャッチコピー (4)〉